

# すだち摘果・摘葉、収穫 作業マニュアル

すだちの商品としての価値は、主に色と大きさに決まります。果実全体が緑色で、サイズが2 L（下表参照）の物が最も高く取引されます。逆に、果実の一部が色づいてなかったり、2 L以外の大きさになると価値が下がってしまいます。

そのため、農家では収穫の一ヶ月ほど前から、摘果（てきか）摘葉（てきよう）という作業を行います。摘果は余分な果実を摘み取り、果実の大きさをそろえます。摘葉は葉っぱを摘み取り、果実に太陽の光をあて、色づきをよくします。このような作業を行うことで、商品価値を高めるとともに、出荷できる果実を増やします。

すだちの摘果・摘葉、収穫作業は、商品としての価値に大きく影響します。作業方法を十分に理解し、慎重に作業を行いましょう。

※本マニュアルは基本的な作業方法を記載しています。農家によって作業方法に違いがありますので、農家の方に確認のうえ、作業にあってください。

## すだちの出荷規格

（平成23年度JA全農とくしま出荷規格より）

### （1）見た目の出荷規格

等級		商品価値
赤秀	品質固有の形状で、色沢優れ玉揃い良く、病虫害・外傷のないもの	 高い          低い
青秀	赤秀に次ぐもので、緑色のうすい物	
無印	青秀に次ぐもので、軽微な害虫・外傷果の混入するもの	

### （2）大きさの出荷規格

階級	果実の直径
4 L	4.3以上
3 L	4.3cm未満～4.0以上
2 L	4.0cm未満～3.6以上
L	3.6cm未満～3.3以上
M	3.3cm未満～3.0以上

## 服装

長袖、長ズボンの服

手袋・長靴・日焼けを防止できる帽子

※暑い時期に行う作業なので、タオルや着替えの服を用意することをおすすめします。

# 作業の手順・方法

## 1. 摘果 作業時期：7月中旬～8月中旬

摘果作業では傷の付いた果実や、極端に小さい果実を取り除きます。また、密着した果実も生長の妨げになったり、色づきが悪くなる原因となりますので取り除きます。



①傷果

病害虫やスレが原因で傷ついている果実



②小玉果

周辺の果実と比べて極端に小さい果実



③密着果

摘果前



摘果後

果実同士が密着している場合は、肥大を促進するため間引く



④房成り果

摘果前



摘果後

果実同士がぶどう状に房成りの場合は、肥大を促進するため間引く

### ◆作業上の注意



○果実の間隔

収穫までに大きくなることを考え、4 cm程度あけておきましょう。



○作業は慎重に

この時期の果実は傷つきやすく、ハサミが少しあたるだけで、傷がつく恐れがあります。

## 2. 摘 葉 作業時期：7月中旬～8月中旬

摘葉作業では果実に太陽の光が当たるよう、かぶさった葉や枝を取り除きます。葉は手で引っ張るとちぎれますが、強く引っ張りすぎると果実が枝などにぶつかり、傷が付く原因となりますので注意しましょう。



摘葉前



摘葉後

果実が葉に付着していると付着面が黄白色化するため、摘果と合わせて果実に密着している葉を摘葉する



除去前



除去後

果実に光があたるように、かぶさった葉や枝は取り除く

### ◆作業上の注意



○葉と果実の割合

葉は1つの果実に対し、5～10枚残るように摘み取りましょう。

### 3. 収 穫 作業時期：8月中旬～9月中旬

収穫時に落としたり衝撃が加わると、貯蔵したときに腐りやすくなります。外見は何の変化も無いように見えますが、一度、衝撃を受けた果実は混ぜずに別に扱きましょう。

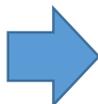
木になっている果実は太陽の光があたると緑色が濃くなりますが、収穫後は光があたると緑色が薄くなります。果実の入ったカゴは木の陰などに置くよう配慮しましょう。

#### ◇二度に分けて切ります



1回目

果実から1～2cm程度離して切る



2回目

ハサミで果実を傷つけないようにギリギリのところで切る

#### 収穫した果実



○へたをきれいに残した果実



×へたを全部切っている。



×枝がのこっている。

#### ◆作業上の注意

- ・ハサミの先を果実にあてない。
- ・果実を引っ張って収穫しない。
- ・すだちの木にはトゲがあります。安全に作業を行うために適宜、トゲを切り取りましょう。

発行

JA名西郡農作業無料職業紹介所事業推進協議会

住所：徳島県名西郡神山町神領字東野間 1 - 1

JA名西郡神山センター指導販売課内 無料職業紹介所係

TEL：080-8631-8266